



男鹿半島・大潟ジオパーク

日本列島のでき方がわかる地層博物館・男鹿と、日本で2番目に大きかった湖・八郎潟にできた人工の大地・大潟が2011年に認定されました。恐竜がいた7,000万年前から現在までの大地の歴史、人の歴史を連続して見ることができる日本唯一のジオパークです。



史跡脇本城跡案内人

一緒に城跡を歩いてみませんか。
案内料は「無料」です。事前にお申込ください。

文化スポーツ課 文化ジオパーク推進班

0185-24-9103

受付 月曜～金曜 午前8:30～午後5:15

脇本城跡案内人 検索



城主の装束季ん

脇本城跡 AR- どこでも立体地図



大量の通信量がかかるため、Wi-Fi などの高速で安定した環境下でのご利用を推奨します。

二次元コードの読み取り



脇本城の立体地図が表示され、机上で観察できます。

※脇本城現地でも設置されている説明板に AR 体験の二次元コードがあり、お楽しみいただけます。

◆ 関係年表

時代	年 号	西 暦	事 項
中世	元弘 4	1334	北条方の勢力、小鹿嶋や秋田城に館を築く。 足利尊氏、室町幕府を開く。(1336)
	康永 3	1344	嶋郡地頭安倍兼季、北浦日枝神社を再建。
	康正 2	1456	安東政季、小鹿嶋に入り、ついで河北郡(現在の山本郡)を支配。 応仁の乱始まる。(1467)
	延徳 3	1491	秋田湊安東二郎宗季、増川に神社を建立。
	大永 4	1524	湊安東知季、椿・双六両村の境を確認。
	天文 8	1539	安東愛季が嶋山城主舜季と、湊城主堯季の娘との間に出生したといわれる。 ポルトガル船、種子島漂着[鉄砲伝来](1543)
	永禄 5	1562	愛季、浅利則祐を畠田(大館市)の長岡城に攻める。
	8	1565	愛季、鹿角郡に侵攻。
	元亀元	1570	愛季、湊安東氏をもあわせ、その領地を支配。 室町幕府滅ぶ。(1573)
	天正 3	1575	愛季、織田信長へ鷹を献上。
近世	4	1576	実季、愛季の二男として嶋山城で誕生。
	5	1577	愛季、従五位下に任命される。
	8	1580	愛季、嫡子業季に湊・嶋山の両城を譲り、脇本城を居城とする。
	11	1583	愛季、朝廷から従五位上の地位を与えられ、侍従に任命される。
	15	1587	実季、湊城主となる。 本能寺の変(1582)
	17	1589	愛季、由利へ侵攻。浅利勝頼を嶋山で謀殺。 羽柴秀吉、関白となる。(1585)
	19	1591	愛季、戸沢氏と合戦中に没す。 遺骸は脇本城下の法蔵寺に葬られる。
	慶長 7	1602	豊島城主湊通季、実季を湊城に攻撃(湊合戦) 実季は嶋山城に籠城し勝利。 脇本城船越川が戦場となる。 豊臣秀吉、全国統一。(1590)
	10	1605	実季、脇本の菅原神社建立。 実季、安東姓から秋田姓を称する。 関ヶ原の戦い。(1600)
	寛文12	1672	実季、宍戸(茨城県)へ移封。
現代	文化元	1804	佐竹義宣が秋田に入る。 徳川家康が将軍となり江戸幕府を開く(1603)
	昭和62	1987	佐竹藩士十一人が、脇本横町から比内十二所に入る。 菅原神社、現在地へ移転。 紀行家、菅江真澄が脇本城跡を訪れる。 明治維新(1868)
	平成 5	1993	地元有志が『脇本城址懇話会』をつくり、城の整備に着手。
	7	1995	脇本城跡遺構調査を開始。
	9	1997	脇本城跡が市指定文化財となる。(788,626㎡)
	12	2000	脇本城跡が県指定文化財となる。(784,346㎡)
	13	2001	市指定文化財に追加指定(62,630㎡)。
	16	2004	確認調査着手。
	19	2007	国指定文化財に指定(1,287,383㎡)。 史跡脇本城跡保存管理計画策定。 脇本城跡案内人活動開始。
	26	2014	史跡脇本城跡整備基本計画策定。
令和	27	2015	史跡整備事業着手。
	29	2017	史跡整備事業着手。
	令和 4	2022	続日本100名城認定。 国指定文化財に追加指定(2,387㎡)。

自然や文化財を守るために

ここは文化財保護法、男鹿市文化財保護条例で守られている文化財です。
現状を変更することなどは文化庁または男鹿市の許可が必要になります。
男鹿市の自然や歴史を未来へ伝えるために、みんなの自然や文化財を大切にしましょう。
また、城跡内には木陰等が非常に少なくなっております。
ご見学の際は熱中症や急な雨、落雷にご注意ください。

文化スポーツ課

〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1
TEL. 0185-24-9103 FAX. 0185-24-9200
bunka@city.oga.akita.jp





秋田県 男鹿市

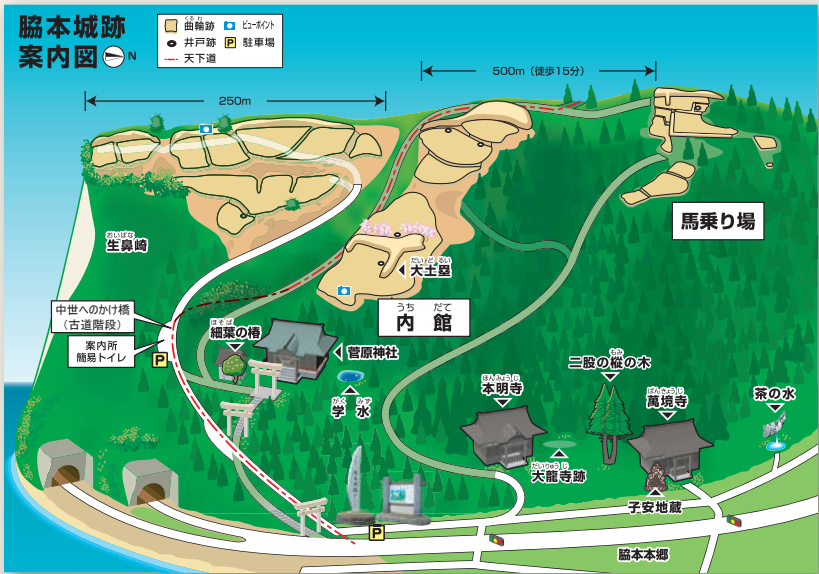
脇本城について

〔平成16年 史跡指定／令和4年 追加指定／指定面積 1,289,760㎡〕

脇本城跡は、男鹿半島南側の脇本地区に位置する中世の城跡です。日本海に突き出すようにそびえる標高100mの丘陵地に位置し、自然地形を巧みに利用しつつ、大規模な造成をして整備した中世・戦国のいわゆる「土づくりの城」です。その築城年代は明らかではありませんが、出土遺物の特徴などから、15世紀にはすでに城として機能していたと考えられます。

石垣や天守をもつ城に比べると見た目は少し地味ですが、築城数百年を経てもなお、当時の面影を偲ばせる遺構の数々は、その残存状況のよさからも当時の土木技術の高さをうかがわせます。

城のある丘陵地の面積は約150ha(1,500,000㎡)で、秋田県能代市の檜山城、福島県会津美里町の向羽黒山城、東京都八王子市の八王子城など、東日本を代表する城と比較しても勝るとも劣らない規模を誇ります。



※脇本城跡は平成16年に国の史跡指定を受けています。
※城跡の範囲内は文化財保護法の制限を受けます。

脇本城を知る

中世の男鹿半島は、安東氏の支配下にあったことが市内にある寺社の由来などから知られています。脇本城も安東氏に関係する城館であると考えられ、発掘調査でも、安東氏を示す遺物が出土しています。

脇本城は天正5年(1577)に安東愛季が大規模に改修しと伝えられており、正保4年(1647)の『出羽一国御絵図』には、既に「古城」として記されていることから、江戸時代の初めには廃城になったと考えられています。

その後、近隣集落の入会地となって大切に管理されてきた場所が多く、中世遺構の残存状況が非常に良好で、曲輪や土塁、井戸跡などを今でも確認することができます。

また、発掘調査によって、曲輪を造成した際の厚い盛土層や空堀跡、掘立柱建物跡や柵列跡などが見つかっています。

脇本城では、遺構の構造や地名等から、比較的小規模な曲輪が並列的に群をなして立地する「内館地区」、単廓の大規模な曲輪を中心とし、周囲に小規模な曲輪が展開する「馬乗り場(古館)地区」、小さい尾根の頂上部に小規模な曲輪が位置する「兜ヶ崎・打ヶ崎地区」、「乍木地区」、内館及び馬乗り場の立地する丘陵下に位置する「お念堂地区」と大きく5つに分けています。そして、短冊形の地割やカギ型に曲がる道が残る「城下町地区」と、現在も寺院が多く残る「寺院地区」も城に関連する地区として一体で考えています。

発掘調査での出土遺物の年代観などをもとに、城の中心が移り変わってきたと考えられています。

※「城下町地区」は脇本遺跡として登録されています。
※「寺院地区」の一部は横町道上I・II遺跡等として登録されています。

脇本城の変遷



I期(10世紀前半から後半)



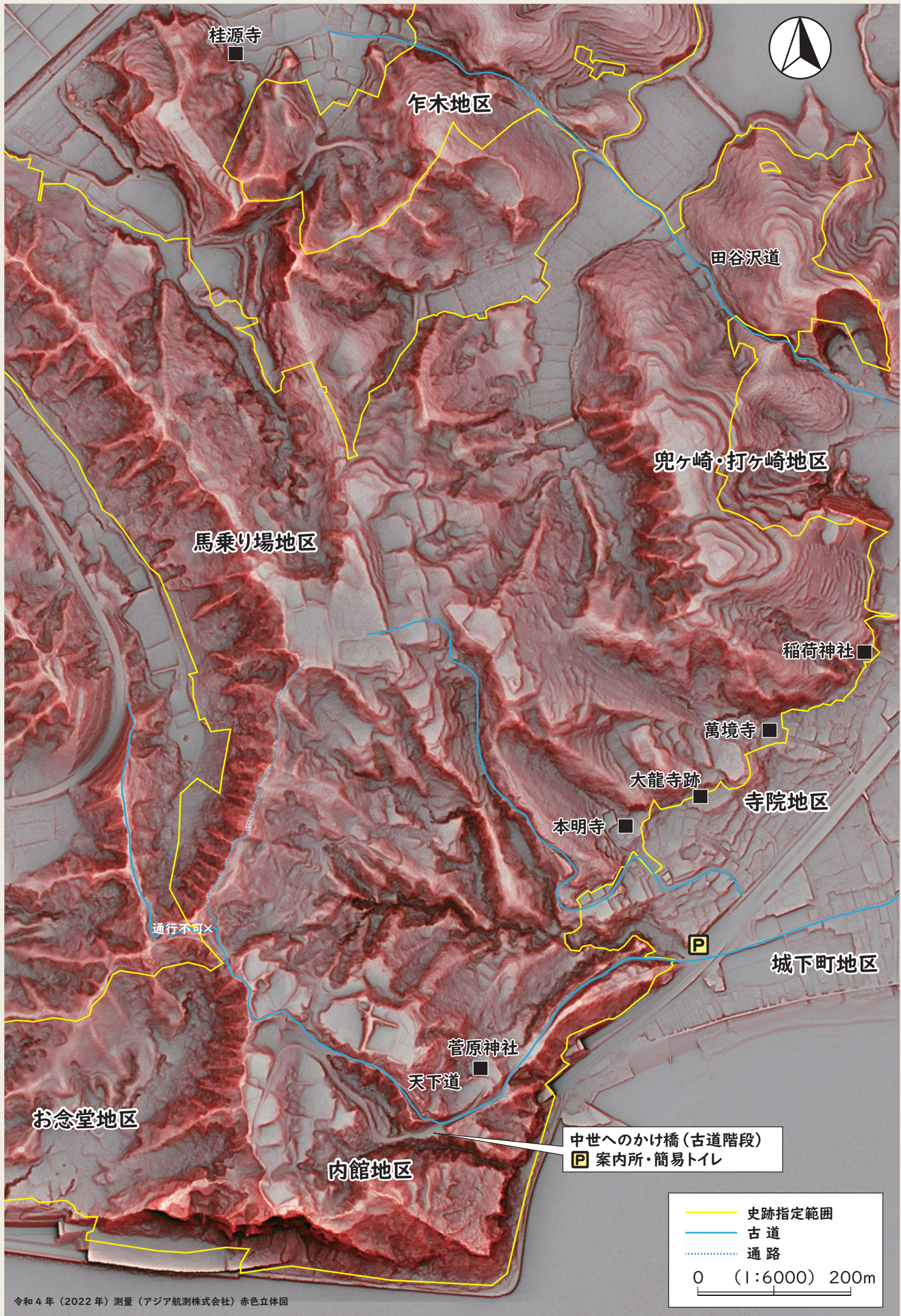
II期(15世紀前葉から15世紀中葉)



III期(16世紀前葉から後葉)



IV期(17世紀以降)



内館地区の遺構



大土塁 最大高低差が約6mある最大の土塁。土塁は地区の西側にも残る



井戸跡 6か所の井戸跡が、くぼ地として今も残る



虎口 曲輪への入口として最もよく残る



曲輪 山を切盛りして小規模な平場を複数造成しているのが特徴



古道 (通称：天下道)

発掘調査



盛土造成の痕跡



西側土塁上から検出された柵列跡

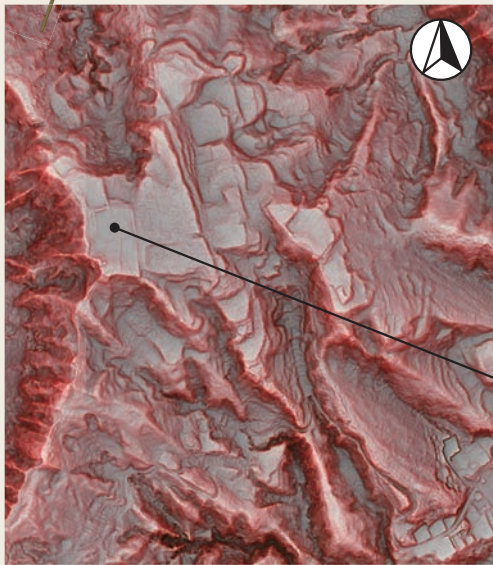


青磁皿の出土状況



画：富永商太／監修：千田嘉博

馬乗り場(古館)地区の遺構



曲輪 単独の広い曲輪。曲輪内には井戸跡や土塁が残る

金の茶釜伝説

かつて脇本城が攻め込まれた時、当時の城主は貯え持っていた数多くの金銀財宝を家臣に持たせ逃げるように指示したが、「金の茶釜」だけは持ち出さずに井戸の底深くにうずめたと言われる伝説があります。明治になって、この伝説を信じた人は、夜夜この井戸跡を掘り続けたと言われていますが、未だ見つかっていません。
※現在、遺跡範囲内の掘削は法律で制限されています。

脇本城跡の出土遺物



青磁



中国元時代の染付「玉壺春」



足金物



刀



唐津焼



瓦質土器



鉾



小札



火縄銃の弾



墓石



越前焼



瀬戸焼



下駄



卒塔婆

《用語解説》

遺構：過去の建築物や土木工作物等の総称

土塁：土を積み上げたり、削りだして築いた施設

曲輪：土地を平らに整地し、城壁や堀・土塁など人工物や自然の崖や川などで仕切った城内の区画

井戸：生活用水確保のための施設

虎口：城郭・陣営の要所にある出入り口

空堀：水のない堀。山城に多く、障害として設けるほか、城兵の通路などにも用いる